

忘れてはならない教訓

「羽越水害の記憶／羽越水害のあらまし」

降り続く激しい雨



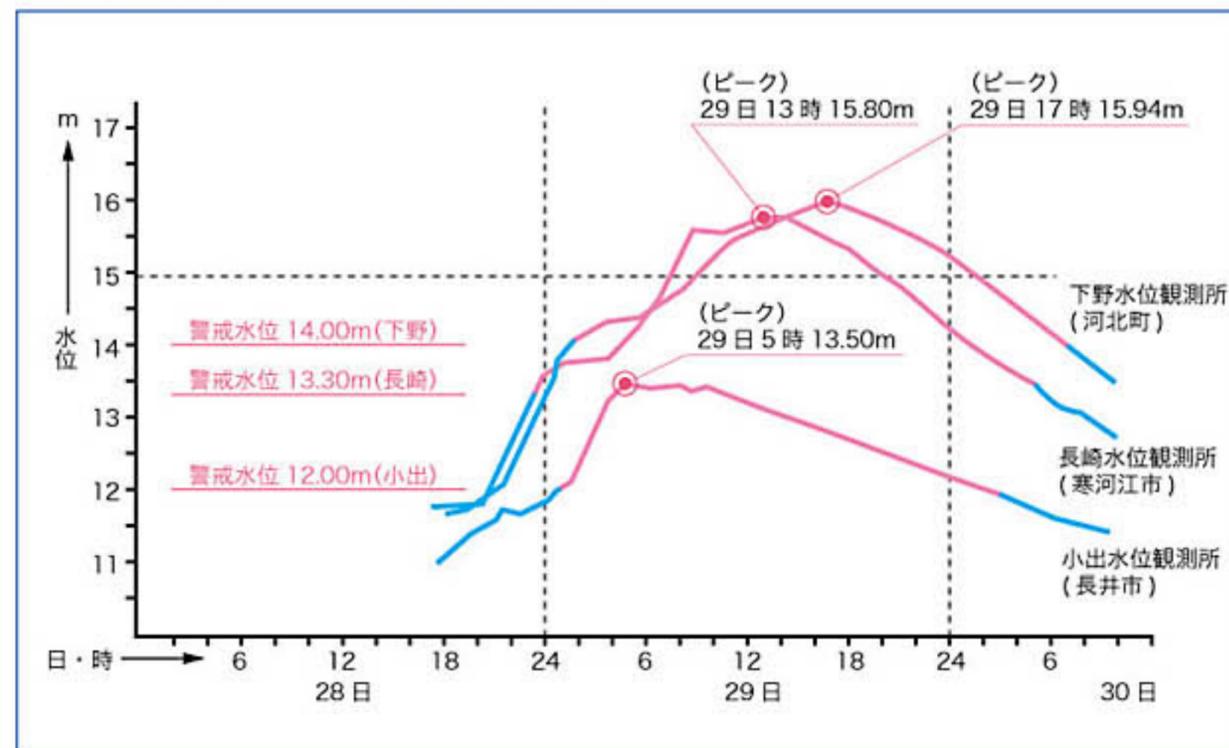
氾濫の爪跡(川西町上小松)

昭和42年(1967年)8月28日未明、東西に延びる前線は東北地方南部から北陸地方輪島の北を通り、日本海北部に停滞していた低気圧に達して、いわゆる梅雨末期の気圧配置となり、低気圧が東に進むにつれ、前線は北上し、その活動が活発になりました。このため、28日早朝から降り出した山形県中南部の雨は、前線の動きにつれ、28日夕刻から29日未明にかけて激しさを増し、飯豊・朝日山系を中心とする西置賜地方では未曾有の集中豪雨となりました。

急激に上昇する水位

昭和42年(1967年)8月28日早朝から、ゆっくりと上昇を続けていた各河川の水位は、28日の夕刻から夜半にかけ全川にわたり急激に上昇し、高畠町糠野目、長井市小出、白鷹町広野の各量水標では、それぞれ28日24時から29日4時までに指定水位を越え、さらに雨勢が増すにつれ1時間に30～60cmと急上昇し、29日朝までには続々と警戒水位を突破するに至りました。

昭和42年8月28日～29日洪水波形



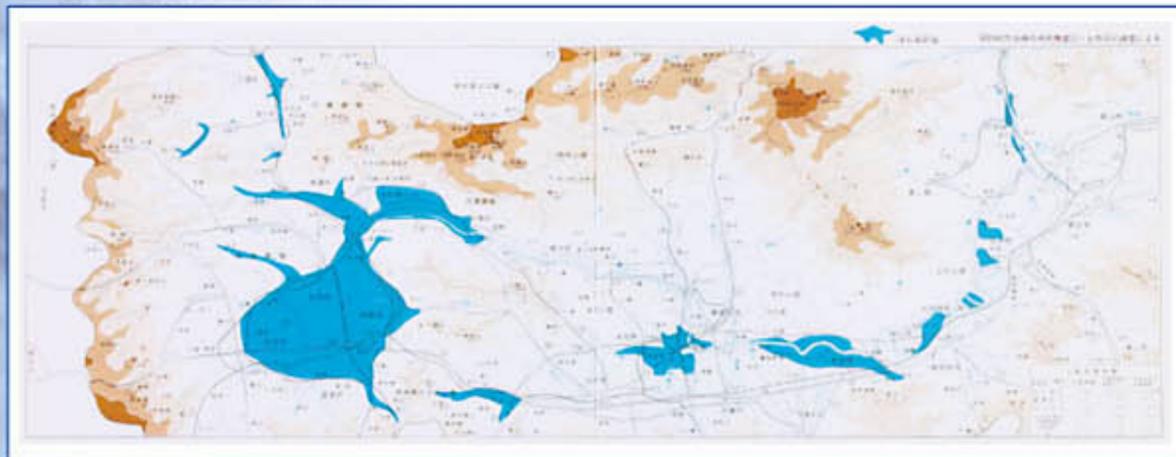
忘れてはならない教訓

「羽越水害の記憶／被災規模等」

県史上空前の大被害をもたらした洪水

最上川上流地区は急激に水位が上昇し、白鷹町の本川左岸で溢水、各支川において堤防の決壊や氾濫が続出し、置賜地方から村山地方にかけて、その被害は死者8人、負傷者137人、流出家屋167戸、床上浸水10,818戸、床下浸水11,066戸、農地等への浸水13,180ha等に達しました。被害総額は約226億3,800万円におよび、県史上空前の大被害をもたらしました。

■羽越水害氾濫区域



被害総額約226億3,800万円
(昭和42年当時の大卒初任給の平均は26,200円)

現代の貨幣価値に換算すると

(平成17年換算推定値)

被害総額約641億1,000万円
(平成17年度の大卒初任給の平均は193,900円)

(昭和42年の7.4倍)



死者



8人



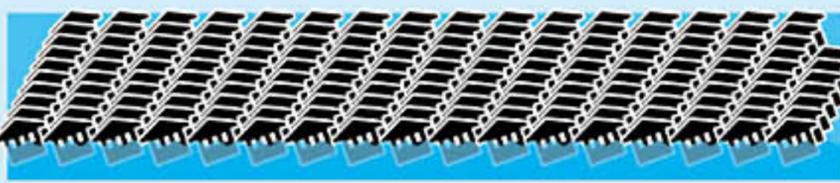
負傷者



137人



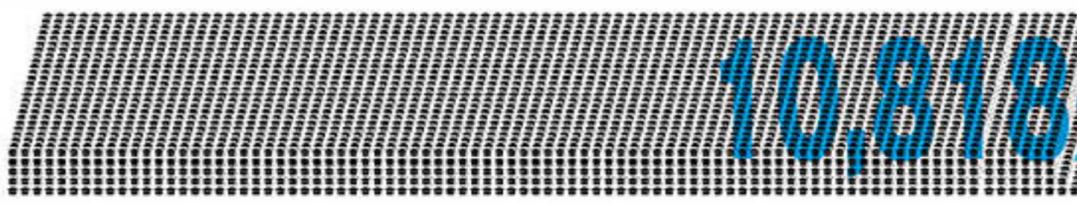
流出家屋



167戸



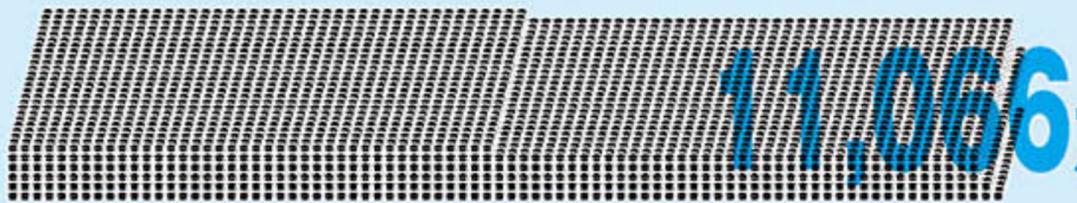
床上浸水



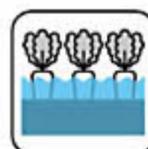
10,818戸



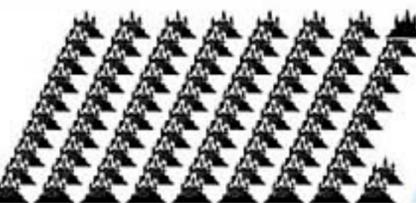
床下浸水



11,066戸



農地等の浸水



東京ディズニーランド
&
東京ディズニーシー
約82コ分

13,180ha

農地等の浸水



左上

[小国町] 激流に押し流された家屋

右上

[小国町] 横川の惨状。流木で山となった小国橋

左下

[飯豊町] 28日未明からの豪雨による白川の増水、部落の連絡橋である中里橋が流出

忘れてはならない教訓

羽越水害の記憶／資料写真



左 上

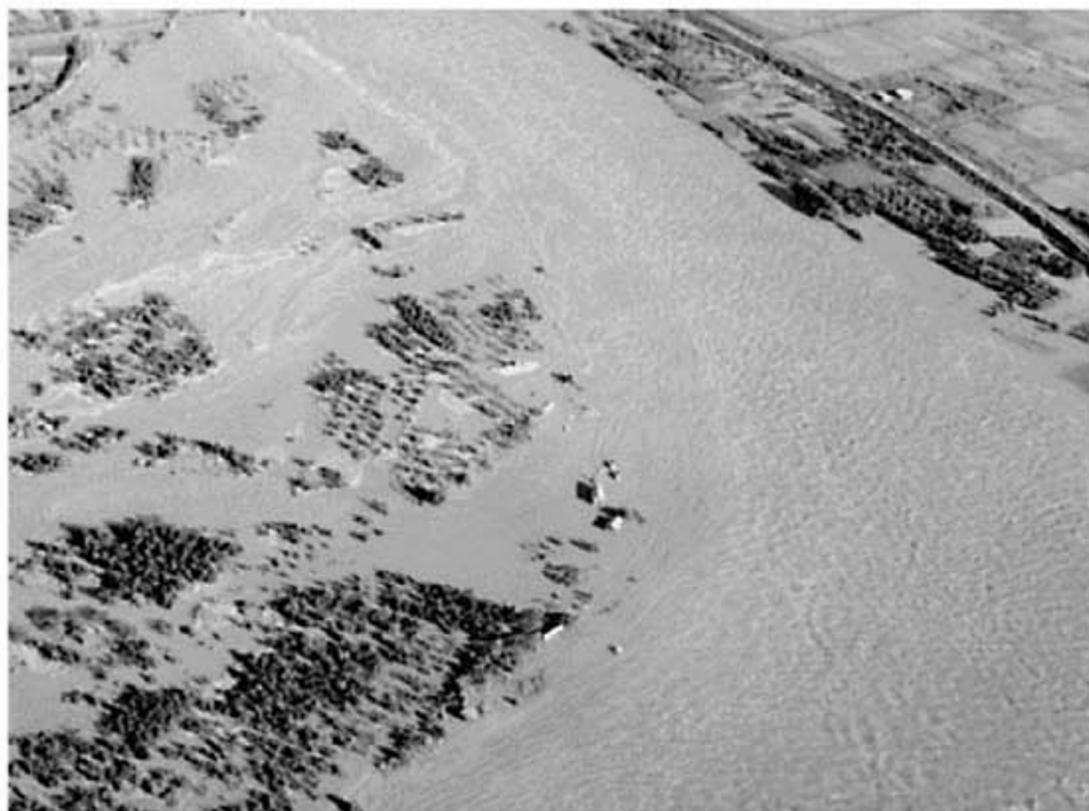
〔川西町〕 支川犬川の氾濫によって道路が川となり商店街が流木等の溜まり場と化した。

右 上

〔長井市〕 氾濫により救助活動中の消防団

左 下

〔南陽市〕 最上川及び支川吉野川の氾濫で置賜地方は一瞬にして泥海となった。



左上

〔山形市〕 昨年の水害で通行不能となっていた門伝橋が損壊した。

右上

〔大江町〕 最上川の氾濫により家屋の軒先まで浸水し流木等の溜まり場と化した被災地

左下

〔中山町〕 長崎鉄道上流の出水状況



左

[中山町] 最上川の氾濫による被災者の懸命な救助



中央

[中山町] 長崎橋手前、国道112号線の越水



右

[中山町] 長崎橋手前、国道112号線の決壊状況